

W3-02 人工呼吸器のメンテナンスの標準化 「開始直後の点検で行うべき項目について」

川崎医科大学附属病院 ME センター：高山 綾

＜はじめに＞

人工呼吸器の日常点検には、使用前、使用中、使用後などがあり、様々な指針やマニュアルなどに詳細な点検項目やチェックリストが掲載されている。しかし、開始直後の点検で行うべき項目についてはその他の点検項目に比べて詳細でない場合や、また取り上げられていない場合なども多くみられる。

＜点検項目について＞

開始直後の点検項目については「患者側」、「人工呼吸器側」、「設備側」に大別され、それぞれ必要となる。まず、最も重要なのは「患者側の観察項目」であり、胸郭の動きの確認や呼吸音の聴取、生体情報モニタ値のチェックなど「患者の換気状態はどうか」といった視点で観察することが必要である。そして、「人工呼吸器側」や「設備側」においては、電源・供給ガス・回路・加湿器等本体や設備の確認をはじめ、換気条件やアラームが設定通りに作動しているかどうか等が点検項目となる（図 1）。

＜現状の問題点＞

現状における問題点としては、医師、看護師や

臨床工学技士など職種によって確認する点検項目が異なる場合がある。また緊急時か否かや、昼間か夜間休日かなど人工呼吸開始時の状況によって優先すべき点検項目が異なる場合や、実際に使用時に立ち会える医療スタッフ数や職種に制限があるため、施設ごとにバラつきがある等の問題も見られる。

＜まとめ＞

使用直後の点検項目の多くは使用中点検と重複しているが、点検項目としては、まずは患者を診ることが最も重要であり、同時に人工呼吸器本体の作動確認を行わなければならない。そして、使用直後の点検は使用中点検の中から、患者の安全確保のためには最小限かつ必須な点検項目の決定が必要であると考えられた（図 2）。しかし、メンテナンスの標準化の前に、用語や点検内容の見直しなど検討しなければならないことが多くあり、医師・看護師・臨床工学技士・理学療法士など各々の専門性を生かした効果的なチーム医療を実施し、患者にとって安全な呼吸療法を提供するためには今後の検討課題も多いことが判明した（図 2）。

図 1 開始直後の点検項目

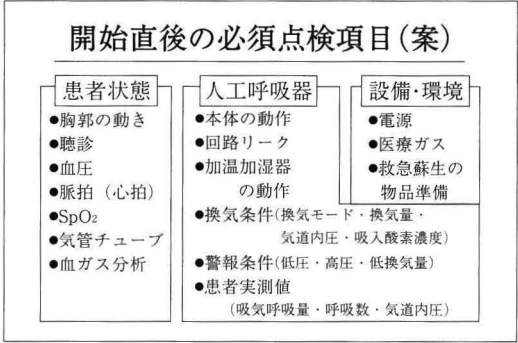


図 2 今後の開始直後の点検について（例）

